

2017年7月31日 現在

日本文化政策学会
第11回年次研究大会
開催要綱

研究大会テーマ
「文化政策の可能性と課題」

2017年9月17日(日)・18日(月)

会場：北海道大学

主催：日本文化政策学会
共催：北海道大学大学院文学研究科(文学部)

2017年7月31日 現在

大会趣旨：

2001年に文化芸術振興基本法が制定されてから15年を経て、文化芸術施策を展開するための環境は変化を遂げてきた。芸術の頂点を目指し、すそのを広げるというあり方から、文化・芸術を活用したまちづくりまで、文化・芸術の本質を越えた機能に注目が集まった15年だったともいえる。本大会では、拡大する文化政策について、改めて文化・芸術の本質面から見直し、政策の展開可能性と課題を探ることとする。

日 時：2017年9月17日（日）・18日（月・祝日）

会 場：北海道大学（〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西7丁目）

研究大会会場：人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）

懇親会会場： レストラン「エルム」

※JR「札幌駅」下車 徒歩15分

市営交通・地下鉄南北線・東豊線「札幌駅」下車 徒歩15分

市営交通・地下鉄南北線「北12条駅」下車 徒歩10分

協力：公益財団法人北海道文化財団、札幌国際芸術祭実行委員会、さっぽろ天神山アートスタジオ

後援：北海道、札幌市、北海道市長会、北海道町村会、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センターHIECC、公益財団法人札幌市芸術文化財団、北海道文化団体協議会、札幌文化団体協議会、ACF 札幌芸術・文化フォーラム

参加費：事前振込の場合、会費1千円・非会員2千円・学生1千円。当日申込は会員2千円、非会員4千円、学生2千円。

※1日目の公開シンポジウム1および公開ラウンド・テーブル、2日目の企画フォーラムおよび公開シンポジウム2、両日のポスターセッションのみの参加は無料です。

2017年7月31日 現在

大会スケジュール

9月17日(日)

- 08:30 受付開始
- 09:00~10:45 分科会Ⅰ-A~E
- 11:00~13:00 公開ラウンド・テーブル
「文化法制について考える」
(公開・無料<事前申込不要>) /手話通訳有
- 13:00~14:00 昼食
- 14:00~15:30 企画フォーラム(4企画)(公開・無料<事前申込不要>)
(1)「芸術文化振興による地域活性化をめざしてー
長野県大町市の事例から考えるー」
(2)「多様な人々を受け入れる劇場をつくるために~文
化政策の視点からアプローチする『劇場のアクセ
シビリティ』」※手話通訳有、遠隔文字支援有
(3)「文化政策史とは何かー近代東アジア文化政策史の
視点からー」
(4)「自治体文化財団のマネジメントとガバナンスー自
治体と自治体文化財団の関係のあり方ー」
- 15:45~17:45 公開シンポジウム1
「文化の胆力が拓く希望創造都市ー少数派からの挑戦ー」
(公開・無料(事前申込不要)) /手話通訳有
- 18:00~20:00 懇親会

9月18日(月・祝日)

- 08:15 受付開始
- 09:00~10:45 分科会Ⅱ-A、C~E
(ただし、分科会Ⅱ-Bのみ08:30~10:50)
- 11:00~12:45 分科会Ⅲ-A~E
- 12:45~13:45 ポスターセッション(コア・タイム)
- 12:45~13:45 昼食・理事会
- 13:45~14:15 総会 /手話通訳有
- 14:30~16:30 公開シンポジウム2
「文化事業に関する評価の再検証」
(公開・無料<事前申込不要>) /手話通訳有

2017年7月31日 現在

◎研究大会プログラムに関するお問い合わせ先

日本文化政策学会第11回研究大会事務局（札幌）

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

北海道大学大学院文学研究科 佐々木亨研究室

E-mail: jacpr.program@gmail.com

◎上記以外（入退会、参加申込・支払等）のお問い合わせ先

日本文化政策学会事務局（東京）

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院人文社会系研究科 文化資源学研究室内

E-mail: jpcr_office2013@yahoo.co.jp

URL: <http://www.jacpr.jp>

2017年7月31日 現在

プログラム

9月17日(日)

8:30 受付開始 人文・社会科学総合教育研究棟 入口

9:00~10:45 分科会 I A~E 人文・社会科学総合教育研究棟

分科会 I — A「自由討論 1」 W101

座長：太下 義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

発表者 予定討論者

①佐藤 良子（昭和音楽大学）、武濤 京子（昭和音楽大学）

「The Association of Arts Administration Educators(AAAE)の活動：
アートマネジメント教育の歴史と国際ネットワーク」

石川 緋名子（静岡文化芸術大学研究員）

②陸 善（法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程） 「日本と韓国における高齢者の芸術文化教育」

太下 義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

③小島 立（九州大学）

「『ストリートアート』に法はどのように向き合うべきなのか？」

小林 真理（東京大学）

分科会 I — B 「「地域とアート：経済、市民参加、運営基盤 1」 1 番教室

座長：吉田 隆之（大阪市立大学）

発表者 予定討論者

①藤原 旅人（九州大学大学院芸術工学府博士後期課程）

「芸術創造を支援する市民の主体性に関する研究」

吉田 隆之（大阪市立大学）

②三宅 美緒（北海道大学大学院文学研究科博士課程）

「500m 美術館ボランティアの変遷」

柴田 尚（北海道教育大学）

③柴田 尚（北海道教育大学）

「ヌーヴォーシルクとワイナリー」

松本 茂章（静岡文化芸術大学）

2017年7月31日 現在

分科会Ⅰ ー C「市民社会と地域資源」

2番教室

座長：吉澤 弥生（共立女子大学）

発表者

予定討論者

①落合 志保（立教大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程）

「森林ボランティアの活動が地域住民に与える影響」

吉澤 弥生（共立女子大学）

②岩井 千華（九州大学大学院芸術工学府）

「図書館の文化活動への市民参加の意義と課題」

本田 洋一（大阪市立大学研究員）

③古池 嘉和（名古屋学院大学）

「多治見市における産業・文化資源活用政策の一考察」

野田 邦弘（鳥取大学）

分科会Ⅰ ー D「劇場を考える」

5番教室

座長：柴田 英杞（日本芸術文化振興会）

発表者

予定討論者

①大橋 加奈（静岡文化芸術大学文化庁補助事業プロジェクト研究員）、宮治磨里（静岡文化芸術大学文化庁補助事業プロジェクト共同研究員）

「全国の自治体文化財団における経営実態とその変化要因-「SUAC 芸術経営統計」をもとに-」

佐々木 亨（北海道大学）

②徳永 高志（NPO 法人クオリティアンドコミュニケーションオブアーツ代表）

「近代日本における劇場観の変遷」

柴田 英杞（日本芸術文化振興会）

③山口 真由（劇団7度）

「「公共圏としての劇場」の理論的再検討—公共圏の複数性と文化施設／劇場の関係を踏まえて」

伊藤 裕夫（日本文化政策学会理事）

分科会Ⅰ ー E「都市の文化政策」

6番教室

座長：藤井 慎太郎（早稲田大学）

発表者

予定討論者

①曾田 修司（跡見学園女子大学）

「カナダ・ケベック州の文化政策とCINARS」

藤井 慎太郎（早稲田大学）

2017年7月31日 現在

②李 知映（東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員／関東学院大学助教）

「伝統芸能の産業化 ―韓国貞洞（ジョンドン）劇場の『ミソ（MISO）』を事例として―」

杉浦 幹夫（アーツカウンシル新潟）

③長嶋 由紀子（東京大学大学院人文社会系研究科研究員）

「フランスの都市社会政策における文化政策の課題」

曾田 修司（跡見学園女子大学）

11:00~13:00 公開ラウンド・テーブル

W201、W202

テーマ：「文化法制について考える」

※手話通訳有

登壇者：

伊藤 裕夫（日本文化政策学会理事）

鬼木 和浩（横浜市）

川井田祥子（鳥取大学）

小島 立（九州大学）

中川 幾郎（日本文化政策学会顧問）

長津 結一郎（九州大学）

中村 美帆（静岡文化芸術大学）

馬場 憲一（法政大学）

吉本 光宏（ニッセイ基礎研究所）

モデレーター：小林 真理（東京大学）

13:00~14:00 昼食

14:00~15:30 企画フォーラム（4企画）

(1)「芸術文化振興による地域活性化をめざして ―長野県大町市の事例から考える―」（2番教室）

企画代表者：マルコス・ペルシチ（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文化経営学コース博士課程）

(2)「多様な人々を受け入れる劇場をつくるために～文化政策の視点からアプローチする『劇場のアクセシビリティ』」（1番教室）

企画代表者：萩原 昌子（NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク 副理事長）

※手話通訳有、遠隔文字支援有

2017年7月31日 現在

(3)「文化政策史とは何か—近代東アジア文化政策史の視点から—」 (5番教室)

企画代表者：大蔵 真由美 (東海学院大学短期大学部)

(4)「自治体文化財団のマネジメントとガバナンス—自治体と自治体文化財団の関係のあり方—」

(6番教室)

企画代表者：高島 知佐子 (静岡文化芸術大学)

15:45~17:45 公開シンポジウム1

W103

テーマ：「文化の胆力が拓く希望創造都市—少数派からの挑戦—」

※手話通訳有

登壇者：

磯田 憲一 (公益財団法人北海道文化財団)

松岡 市郎 (東川町 町長)

早坂 純夫 (剣淵町 町長)

加藤 知美 (認定NPO法人アルテピアッツァびばい<美唄市>)

瀬川 謙二郎 (NPO法人ふらの演劇工房<富良野市>)

室谷 元男 (江差いにしえ資源研究会 <江差町>)

司会：河島 伸子 (同志社大学)

18:00~20:00 懇親会

レストラン「エルム」

9月18日 (月、祝日)

08:15 受付開始

人文・社会科学総合教育研究棟 入口

09:00~10:45 分科会Ⅱ—A、C~E 人文・社会科学総合教育研究棟

※分科会Ⅱ—Bのみ 08:30~10:50

分科会Ⅱ — A「自由論題 2」

W101

座長：片山 泰輔 (静岡芸術文化大学)

発表者

予定討論者

①藤原 恵洋 (九州大学)

「小池新二における戦前期「造形政策」提唱と戦後デザイン政策構想への継続性」

伊藤 裕夫 (日本文化政策学会理事)

2017年7月31日 現在

②梅原 宏司（近畿大学講師）

「南原繁の文化国家論」

武田 康孝（国際交流基金）

③猿田 かほる（立教大学大学院社会学研究科博士前期課程）

「ダンスプレイヤーの社会的考察」

太下 義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

分科会Ⅱ — B「地域とアート：経済、市民参加、運営基盤 2」1番教室
座長：熊倉 純子（東京藝術大学）

※発表者4名のため、8：30開始、10：50終了

発表者

予定討論者

①赤松 洋子

「2010年代中核市におけるアートNPOと公共ホールとの協働 —茨城県つくば市の事例より」

桧森 隆一（北陸大学）

②神保 富美子（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）

「劇場、音楽堂等における文化ボランティアに関する一考察」

吉澤 弥生（共立女子大学）

③石垣 尚志（東海大学）

「映像制作ワークショップにおける共創と創造性—「札幌国際芸術祭2017CM映像制作ワークショップ」を事例として—」

岡田 智博（一般社団法人クリエイティブクラスター）

④桧森 隆一（北陸大学）

「『アーティスト未満』の研究～浜松市鴨江アートセンターの事例から」

熊倉 純子（東京藝術大学）

分科会Ⅱ — C「制度運用の実際／組織運営の持続性」 2番教室
座長：友岡 邦之（高崎経済大学）

発表者

予定討論者

①小林 真理（東京大学）

「指定管理者制度以降の民間企業展開と財団の役割変化」

友岡 邦之（高崎経済大学）

②鬼木 和浩（横浜市）

「自治体設置美術館における行政的価値と美術的価値の最大化～指定管理者制度運用の可能性に関する考

2017年7月31日 現在

察～」

長嶋 由紀子（東京大学人文社会系研究科研究員）

③岩瀬 智久（静岡県庁）

「文化施設評価の現状と文化政策評価の課題ー静岡県の事例からー」

吉本 光宏（ニッセイ基礎研究所）

分科会Ⅱ ー D 「文化財保護の本質とその政策の姿 1」 5番教室

座長：馬場 憲一（法政大学）

発表者

予定討論者

①森屋 雅幸（都留市教育委員会）

「地域の文化財保存・活用とコミュニティに関する研究ー山梨県指定文化財旧尾県学校を事例としてー」

藤原 恵洋（九州大学）

②須田 英一（法政大学）

「文化財としての『考古資料』概念の形成と展開」

土屋 正臣（藤岡市役所）

③高久 彩（九州大学大学院地球社会統合科学府修士課程）

「明治国家の「歴史観」と博物館の「歴史観」との関係についてー黒川真頼の著作の分析を通してー」

馬場 憲一（法政大学）

分科会Ⅱ ー E 「文化を通じた地域づくり 1」 6番教室

座長：野田 邦弘（鳥取大学）

発表者

予定討論者

①松本 茂章（静岡文化芸術大学）

「芸術家の定住をめぐる文化政策の試み」

野田 邦弘（鳥取大学）

②加藤 康子（北海道大学大学院国際広報メディア観光学院博士課程）

「都心の新たなプレイヤーとしての趣味縁の拠点～群馬県前橋市と北海道札幌市の事例から～」

吉田 隆之（大阪市立大学）

③吉峰 拓（九州大学大学院修士課程）

「創造的人材の移動と集積がもたらす地域再生への影響ー大分県竹田市の参与調査を通して」

滋野 浩毅（京都産業大学）

2017年7月31日 現在

10:45~12:45 分科会Ⅲ一A~E 人文・社会科学総合教育研究棟

分科会Ⅲ一 A 「社会的課題と芸術：文化政策的観点から」 W101

座長：伊藤 裕夫（日本文化政策学会理事）

発表者

予定討論者

①國盛 麻衣佳（大学講師）

「産炭地の文化的重層性と移住者の受容に関する考察 —三井三池鉱山の文化活動を通して—」

伊藤 裕夫（日本文化政策学会理事）

②長津 結一郎（九州大学）

「芸術と社会包摂をめぐる受容に関する一考察：映画『記憶との対話～マイノリマジョリテ・トラベル、10年目の検証～』上映会をめぐる」

川井田 祥子（鳥取大学）

③谷地田 未緒（東京藝術大学）

「地域文化資源を利用した教育プログラムとその政策的支援—マレーシア Arts EdとKota Kitaを事例に」

友岡 邦之（高崎経済大学）

分科会Ⅲ一 B 「文化政策と評価」

1 番教室

座長：吉本 光宏（ニッセイ基礎研究所）

発表者

予定討論者

①関 鎮京（北海道教育大学）、金 英柱（韓国国際芸術大学）

「韓国の『文化影響評価制度』に関する現状及び今後の展望」

岩瀬 智久（静岡県庁）

②熊谷 薫（アートマネージャー）

「日本国内の地域アートプロジェクト及び芸術祭における評価の現在」

片山 泰輔（静岡文化芸術大学）

③中村 美亜（九州大学）

「文化事業における価値創造の評価」

吉本 光宏（ニッセイ基礎研究所）

分科会Ⅲ一 C 「文化とナショナリズム」

2 番教室

座長：河島 伸子（同志社大学）

発表者

予定討論者

①松本 郁子（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学科博士課程）

「カナダ 文化政策前史 マッセイ委員会とキリスト教会—カナダ合同教会による『文化』の再考—」

2017年7月31日 現在

河島 伸子（同志社大学）

②南田 明美（神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程）

「国立芸術評議会の Arts and Cultural Node 事業における市民社会と文化的ナショナリズムに関する一考察：Arts Gerally@Taman Jurong を事例に（仮）」

川崎 賢一（駒澤大学）

分科会Ⅲ一 D 「文化財保護の本質とその政策の姿 2」 5 番教室

座長：藤原 恵洋（九州大学大学院）

発表者

予定討論者

①土屋 正臣（藤岡市役所）

「文化財保護行政から歴史まちづくり行政へー京都府宇治市を事例としてー」

古池 嘉和（名古屋学院大学）

②井村 直恵（京都産業大学）

「歴史的商店街の維持・発展と政策の役割：京都錦市場を例に」

馬場 憲一（法政大学）

③大上 美来（静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科）

「都市部における歴史的町並み保全の現状と課題ー神奈川県・旧東海道宿場町を事例にー」

藤原 恵洋（九州大学）

分科会Ⅲ一 E 「文化を通じた地域づくり 2」 6 番教室

座長：小林 真理（東京大学）

発表者

予定討論者

① 榎原 彩（東京藝術大学大学院音楽研究科音楽専攻音楽文化学研究領域芸術環境創造博士課程）

「《長野県歌「信濃の国」》の新たな受容状況からみるコミュニティ観の変移に関する研究」

小林 真理（東京大学）

②滋野 浩毅（京都産業大学）、川那辺香乃（BRDG）

「閉校再利用施設におけるアートプロジェクトの実践的研究ー京都府京丹波町旧質美小学校『423 アートプロジェクト』を事例としてー」

熊倉 純子（東京藝術大学）

③本田 洋一（大阪市立大学客員研究員）

「大阪の音楽文化の蓄積と特色ーオーケストラの役割」

杉浦 幹夫（アーツカウンシル新潟）

2017年7月31日 現在

12:45~13:45 ポスターセッション(コア・タイム) W102

12:45~13:45 昼食・理事会 W202

13:45~14:15 総会 5番教室

14:30~16:30 公開シンポジウム2 W103

テーマ:「文化事業に関する評価の再検証」

※手話通訳有

登壇者:

小田井 真美(札幌国際芸術祭2014 評価検証会)

佐藤 麻紀子(六本木アートナイト(2016) 実行委員会)

北村 淳一(三重県総合博物館)

源 由理子(明治大学)

モデレーター:佐々木 亨(北海道大学)

2017年7月31日 現在

公開ラウンド・テーブル 「文化法制について考える」

趣旨：2017年度に入り、文化政策に関連する法制度について、様々な動きがある。これらを概観し、文化政策の実践領域における今後の課題について自由に討論を行う。とりわけ、以下の点について考察の対象とする。第一に、文化芸術振興基本法の改正、第二に障害者のための芸術振興法案の問題、そして第三に文化財保護法の改正の行く末について、である。

2017年度の通常国会において、文化芸術振興基本法が改正され、文化芸術基本法と装いを新たにした。文化芸術振興基本法はどのような点に問題点があり、それが解決されたのか、あるいはされなかったのか。またこの法改正により、文化政策の実施においてどのような問題があるのか、ないのか。そして第二に、2016年度、障害者のための芸術振興法案について、クローズアップされた年であった。これについては、今年度の国会で通過はしなかったが、この法律案について、この領域の振興にどのような影響があるのかという問題を考える。第三に、今年度に入り、文化審議会の文化政策部会において文化財保護法の改正のための審議が始まった。なぜ今、文化財保護法の改正なのか、どのような改正が必要とされているのか、問題を明らかにする。

【登壇者】

- 伊藤 裕夫 （日本文化政策学会理事）
鬼木 和浩 （横浜市文化観光局文化振興課施設担当課長〈主任調査員〉）
川井田 祥子 （鳥取大学地域学部地域文化学科教授）
小島 立 （九州大学大学院法学研究院准教授）
中川 幾郎 （日本文化政策学会顧問）
長津 結一郎 （九州大学大学院芸術工学研究院助教）
中村 美帆 （静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科専任講師）
馬場 憲一 （法政大学現代福祉学部・大学院人間社会研究科教授）
吉本 光宏 （ニッセイ基礎研究所研究理事）

【モデレーター】小林 真理（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室教授／東京大学政策ビジョン研究センター教授）

2017年7月31日 現在

シンポジウム1 「文化の胆力が拓く希望創造都市—少数派からの挑戦—」

趣旨：心に込み上げる深い喜び、心に沈む深い哀しみを的確に言語表現することが難しいように、「文化芸術」の持つ力や価値を適切に伝えることは容易ではない。政策遂行による効果を、見える形で示すことが求められる行政機関にあって、とりわけ文化政策を具現化するための予算獲得は、その多寡にかかわらず多大なエネルギーを要することになる。多くの自治体における文化予算の脆弱さは、文化政策の果たす多様な価値への理解が、今日なお、自治体経営層に共有されることの少ない証左といえるだろう。「文化で飯が喰えるか！」という常套句は、今なお自治体の現場では勢いよく語られているに違いない。

しかし、グローバル化が進む今日、文化芸術の持つ価値は、より重層的に高まっている。文化芸術は、単に心の「癒し」ではなく、人の持つ才能を発掘し発展させ、次なる意欲を高める。文化芸術を通じて対話が生まれ、創造力を刺激し、ひと・もの・こと全ての魅力を深めていく。「住む人」の誇り、「訪れる人」の共感を育む「文化芸術」の力は、新しい世紀における地域発展の確かな「推力」といいたいだろう。

北海道は、国土の22%を占めながら、経済的には一周遅れのランナーと言われ、原材料供給基地に甘んじてきた。しかし今日、少数ながら、先んじて「文化芸術」の推力に着目し、「共感を呼ぶ地域」としての輝きを増している自治体が存在している。

シンポジウムに登壇されるのは、小規模地域ながら、その潜在力を引き出し、地域の深い魅力を発信している方々。いずれも文化庁長官表彰「文化芸術創造都市」受賞地域で活躍されている皆さんである。未来へ向けて、地域の希望を創造してきた、これまでの、厳しくも「楽しい戦い」を語ってもらう。

【登壇者】

- 磯田 憲一（公益財団法人北海道文化財団理事長）
松岡 市郎（東川町 町長）
早坂 純夫（剣淵町 町長）
加藤 知美（認定NPO法人アルテピアッツァびばい事務局長 〈美唄市〉）
瀬川 謙二郎（NPO法人ふらの演劇工房理事長 〈富良野市〉）
室谷 元男（江差いにしえ資源研究会会長 〈江差町〉）

【司会】河島 伸子（同志社大学経済学部教授）

【企画】

- 関 鎮京（北海道教育大学岩見沢校芸術文化政策研究室准教授）
磯田 憲一（公益財団法人北海道文化財団理事長）

2017年7月31日 現在

シンポジウム2 「文化事業に関する評価の再検証」

趣旨：アートプロジェクトなどの文化事業が全国各地で行われているが、評価のための体系的な枠組みの検討や目的に応じた評価手法の定着は十分であるとは言えない。しかしながら、札幌国際芸術祭 SIAF2014 や六本木アートナイト（2016）の評価報告書などでは、この課題を克服するための試みがなされている。

このシンポジウムでは、まずこのような評価報告書の評価枠組みや使用された手法、評価結果やその後のフィードバックなどを主催者側から報告する。

また、ミュージアムでは、アートプロジェクトより早く、2000年過ぎから事業評価を導入している。ここでは2014年4月にオープンした三重県総合博物館(MieMu)における最新の評価事例も報告する。

その上で、今後の文化事業評価のあり方を、評価学における視点から考察する。その視点としては、①評価設計の考え方、②評価手法の適用と開発、③評価体制、④評価のための環境整備などである。

このことを通して、文化事業における評価活動を改善するとともに、文化事業と文化政策との関係を議論するための基盤作りに資することを目指す。併せて、来年度以降も文化政策学会で評価の関するテーマのセッションを継続するための「種まき」をしたい。

【登壇者】

小田井 真美(札幌国際芸術祭 2014 評価検証会・札幌関係者追跡調査コーディネーター担当)

佐藤 麻紀子(六本木アートナイト(2016) 実行委員会委員)

北村 淳一 (三重県総合博物館学芸員)

源 由理子 (明治大学公共政策大学院教授)

【モデレーター】佐々木 亨(北海道大学大学院文学研究科教授)

2017年7月31日 現在

■大会会場までのアクセスについて

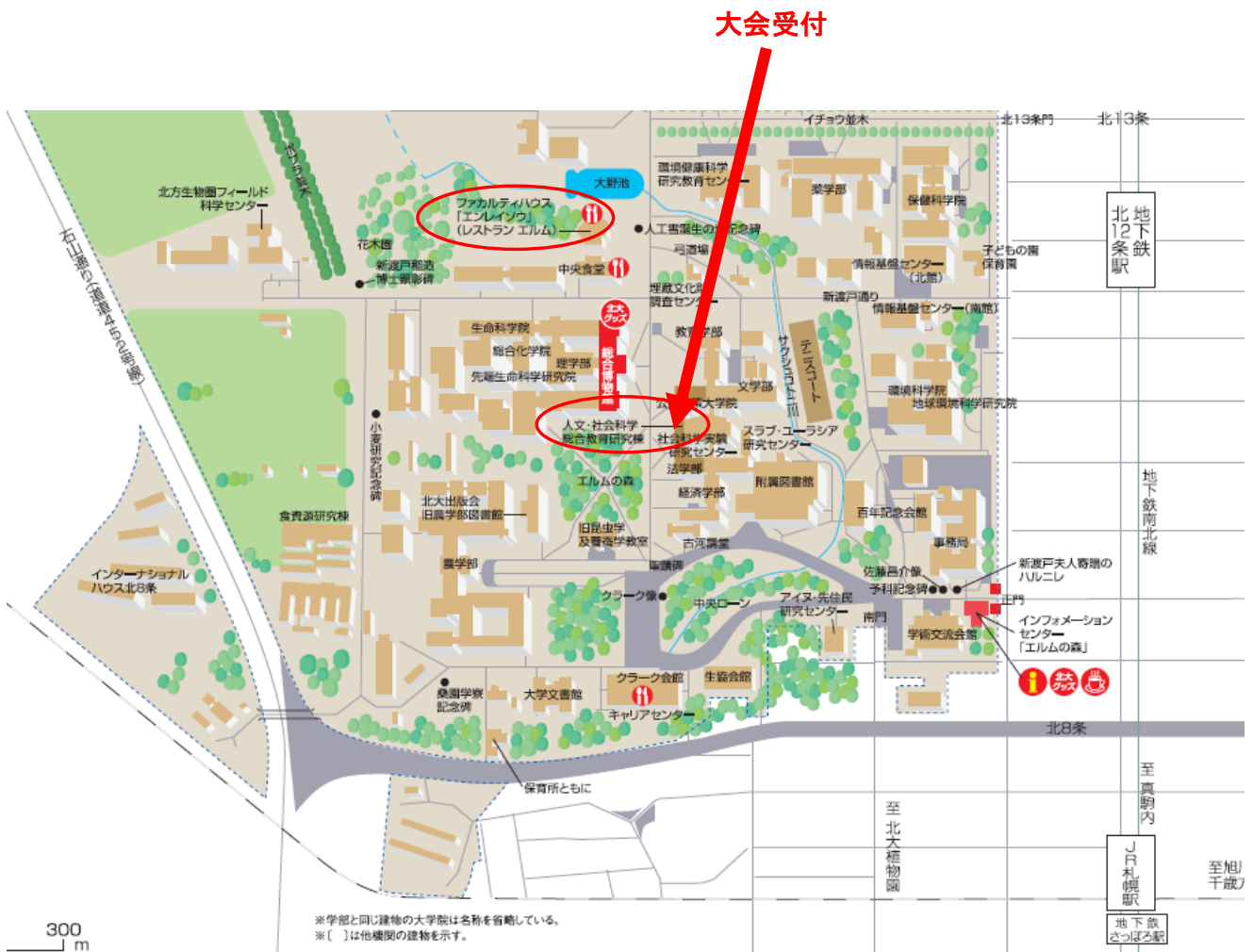
アクセスマップは以下のサイトからダウンロードできます。

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/160812sapporao_can_map.pdf

※JR「札幌駅」下車 徒歩 15分

市営交通・地下鉄南北線・東豊線「札幌駅」下車 徒歩 15分

市営交通・地下鉄南北線「北12条駅」下車 徒歩 10分



2017年7月31日 現在

エクスカージョンについて

札幌研究大会では、9月16日（土）に下記のスケジュールでエクスカージョンを実施します。終了後に懇親会がありますので、あわせてご案内いたします。

～エクスカージョン～

「芸術祭ってなんだ？ ～『札幌国際芸術祭 2017』見どころめぐり」

札幌国際芸術祭（略称「SIAF（サイアフ）」）は、2014年にスタートしたトリエンナーレです。2回目となる今回のテーマは「芸術祭ってなんだ？」。音楽家の大友良英氏をゲストディレクターに迎えて、多様な価値観を共有する豊かさを目指しています。市民とともに考え、一緒に汗をかいて創り上げてきた芸術祭の見どころをご紹介します。

貸し切りバス中では、学会の特別プログラムとして学芸員による作品解説や札幌国際芸術祭事務局長による芸術祭の概要説明をご用意しております。

○日 時： 2017年9月16日（土） 13:00～19:00（予定）

○会 場：モエレ沼公園、札幌芸術の森、札幌市立大学、石山緑地

○参加費：1,300円 [SIAF パスポート代（エクスカージョン参加者特別料金）として]

当日バスにご乗車いただく際に徴収いたします。

○定 員：50名（先着順）

○申込開始：2017年8月1日（火）

○申込み先：「札幌研究大会実行委員会」 jacpr2017.sapporo@gmail.com

お申込みの際には、①お名前、②ご所属、③会員/非会員、④懇親会へのご参加の可否、⑤ご連絡先（メールアドレスと携帯番号）をご記入ください。

※集合場所は、札幌駅北口を予定しています（詳細は後日お知らせいたします）。

2017年7月31日 現在

<ご参考サイト>

- ・札幌国際芸術祭 2017
<http://siaf.jp/>
- ・札幌芸術の森「NEW LIFE：リプレイのない展覧会」
<http://siaf.jp/projects/new-life>
- ・モエレ沼公園 「RE/PLAY/SCAPE」
<http://siaf.jp/projects/re-play-scape>
- ・石山緑地 Asian Sounds Research Presents OPEN GATE 2017
動き続ける展覧会～ An ever-changing exhibition
「何もないところから」～start from here
<http://siaf.jp/projects/open-gate>

～エクスカーション懇親会～

○日 時： 2017年9月16日（土） 19:30（予定）

※エクスカーションの参加者はそのままバスに乗車し、会場に到着。

○会 場： サッポロビール園（札幌市東区北7条東9丁目2-10）

○参加費： 5,000 円（ジンギスカン食べ放題、定番「サッポロ生ビール黒ラベル樽生」が飲み放題！！）

※当日バスにご乗車いただく際にエクスカーションの参加費と一緒に徴収いたします。

※エクスカーション懇親会では、前半に開拓使の産業振興として、拓殖事業を牽引したサッポロビールの歴史。後半では、開拓を支えた民衆史の講話を致します。

講師：石川 圭子(古民家 Gallery 鴨々堂店主／一般社団法人かもテラ代表理事)」

※エクスカーション懇親会のみご参加される方は大会申込期間中に、「札幌研究大会実行委員会」jacpr2017.sapporo@gmail.com へお申込みいただき、会場にて参加費をお支払いいただきます。

<サッポロビール園>

<https://www.sapporo-bier-garten.jp/>

2017年7月31日 現在

■昼食について

1日目・2日目ともに大会参加申込の際に1食あたり1,000円で弁当(汁物付)の御注文を受け付けます。(1食あたり1,000円、両日申し込む場合は2,000円。北海道の野菜をふんだんに使ったお弁当を予定)。もしくは、札幌駅から北海道大学の間で、ご昼食を事前調達の上、大会会場にお越しください。

■懇親会について

○日時：2017年9月17日(日) 18:00~20:00

○会場：レストラン「エルム」(札幌市北区北11条西8丁目北海道大学エンレイソウ)

○参加費：事前申込は一般(会員・非会員ともに)6,000円、学生3,000円

当日申込は一般(会員・非会員ともに)6,500円、学生3,000円

申込方法 大会申込と同時に申込。事前振込が必要です。

2017年7月31日 現在

■研究大会参加申込方法（申込期間 8月1日～31日）

申込は日本文化政策学会のウェブサイトの入力フォームで受け付けています。振込先情報は、入力フォームに入力した後に、学会事務局（東京）から送られる受付確認のメールに記載されています。申込者と振込の照合に確実に期すため、入力フォームでの申込後に振込という手順となりますのでご了解ください。

なお、発表者、予定討論者も参加申込が必要となります。

〈申込手順〉

①学会のウェブサイトにアクセスし、入力フォームに必要事項を入力して送信します。

日本文化政策学会ウェブサイト <http://www.jacpr.jp>

事前申込の入力締切：8月31日（木）16：00（厳守）

②入力フォームで記入したメールアドレスに、回答のコピー（控え）が Google フォームより自動送信されます。この時点では、入力内容の控えの送信のみで、振込先情報の記載はありません。

③学会事務局（東京）より、振込先情報を記載した大会申込受付のメールが送られます。

事前申込の振込締切：9月4日（月）（厳守）

※振込は必ず申込をされた方本人のお名前をお願いします。申込されても振込がない場合は当日申込扱いになりますので、ご注意ください。

※③の受付は手動で行っておりますので、振込先等の連絡に時間を要する場合がありますので、ご了承ください。時間に余裕をもった参加申込にご協力ください。